

実施内容報告書

支援先施設	大町病院	実施分野	摂食嚥下障害看護
認定看護師	長谷川小百合	所属施設	南相馬市立総合病院

目 標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 摂食嚥下の基礎知識を学び実践に活かすことができる ・ 嚥下評価の手法学び実施することができる ・ 摂食嚥下障害のある患者に対してフィジカルイグザミネーションを行い看護計画を立案することができる
--

実施内容

回数 訪問日	実施内容	研修会テーマ	①支援内容 ②アンケートの意見等
第1回 7/6 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ ・ 実践指導 ・ 研修会 ・ 振り返り ・ 次回打ち合わせ 	摂食嚥下の基礎知識を学ぶ (摂食嚥下のメカニズムを知ることができる) 参加者人数 49名	①対象患者様の摂食嚥下障害の状態を把握し、適切で安全な介入方法を提案、指導を行い、実践につなげるアシストを行った。対象患者5名 (詳細は別紙参照) 研修会では摂食嚥下に関する基礎的な知識が理解できるような内容を盛り込み行った。 ②摂食嚥下のメカニズムについて理解できた。分かりやすかった。新しい学びが多かった。すぐに実践できる内容があったからよかった。食べる姿勢のポイントを学びたい。
第2回 8/3 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ ・ 実践指導 ・ 研修会 ・ 振り返り ・ 次回打ち合わせ 	スクリーニングを用いて嚥下機能評価を学ぶ (スクリーニング検査を用い嚥下障害患者を抽出し適切な介入を実践することができる) 参加者人数 37名	①前回介入した患者様の摂食嚥下障害の状態を評価実施し実践を通し、適切で安全な介入方法を提案、食形態の変更の評価方法の指導を行った。(詳細は別紙参照) 研修会では摂食嚥下障害のスクリーニングの仕方を学んでいただき臨床の場で活用していただけのような内容とした。 ②体験をしながらの研修で分かりやすかった。食前の口腔ケア、清潔の大切さを再度考えさせられた。嚥下障害のある方の事例などもお聞きしたい。患者にあった食器や食品を選択できるようにしていきたい。
第3回 9/7 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ ・ 実践指導 ・ 研修会 ・ 振り返り ・ 次回打ち合わせ 	食事時の姿勢調整 ・ 介助の実践 参加者人数 45 名	①前回介入した患者様の経過からステップアップするための評価、ポイントを実践を交えて指導を行った。また、対象患者に対して栄養評価の行い方を合わせて説明を行った。研修会では前回のアンケート結果を基に実践で活かせるような食事姿勢の調整についてよりインプット出来るよう実践形式の研修とした。 ②実践がありより分かりやすかった。姿勢の大切さが理解できた。現場でスタッフへ伝達できる。開口困難や覚醒の悪い方、食欲のない患者様に対してのアプローチの仕方を知りたい。
第4回 10/5 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ ・ 実践指導 ・ 研修会 ・ 振り返り ・ 次回打ち合わせ 	スクリーニングからわかる 適切な食事形態 参加者人数 42名	①継続して介入している患者様の現状をスタッフの方と一緒に評価を行い、次回までの直接嚥下訓練内容や方向性の確認を実践を通して行った。研修では大町病院様の提供している食事に合わせて、適切な食事が提供できるよう評価方法と提供内容の研修を行った。 ②自分が体験することで分かりやすく理解できた。とろみが本当に必要か考えていきたい。実践を交えた研修で分かりやすかった。
第5回 11/2 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ ・ 反省会 ・ 実践指導 ・ 研修会 ・ 振り返り ・ 次回打ち合わせ 	評価指標を使った看護計画の立案 参加者人数 42名	①継続して介入している患者様3名がステップアップするための評価の仕方、現状維持していくためのポイントについて実践を通して指導を実施した。ミーラウンド行い円背の方の姿勢調整の仕方、経口摂取開始するための観察、フードテストを実践指導を行った。研修内容は今までの研修内容を振り返り評価した内容から実際に看護計画の立案し実践していくためのプロセスのポイントの研修を行った。 ②看護計画を立案するポイントが理解できた。今までの研修も理解できた。今までの研修を踏まえて食事介助を行っていこうと思う。患者さんの食という面を良くできるよう頑張っていきたい。嚥下困難な患者様も多いので今後も研修会を開いていただきたい。